



酒井 正敏さん(88歳)  
俊子さん(83歳)  
(花の里在住)

昭和20年4月ご結婚



寒い時期の結婚式  
だったそうです。

結婚60年を迎えて・・・  
「そんなに長い時間が経ったとは思えないね。短かった。」と正敏さん。妻の俊子さんも「あつという間だね。」と一言。  
結婚した当時はまだ戦時中。縁あって茨城県から嫁いできた俊子さんは、出兵している正敏さんに代わって家を守ることに・・・慣れない土地に嫁いで、初めて経験する農業。実家への里帰りも水郡線を使わなければならず気軽にできるものではありませんでした。

それでも、4人のお子さんに恵まれ、現在お孫さんは3人。お互いを思いやりながら、仲良く生活されています。  
人物像、夫婦像・・・  
高校教師をされていた正敏さん。定年まで働いたあと、60歳になってからゴルフを始めたそうです。(現在はお休みな中。)俊子さんは特に趣味というものは無いそうです。  
そんなお二人に心に残っていることを伺ったところ、正敏さんは「終戦」とお答えになりました。俊子さんは「70歳の頃に二人で行った、和倉温泉や佐渡島への旅行です。」とのこと。教師をされていた正敏さんは、修学旅行であちこちに出かけていたそうです。が、なかなかお二人で出かけたというのはなかったようです。  
夫婦喧嘩は、お二人揃って

Diamond Wedding

2005 case 3



「おしどりゲートボール大会」(平成7年)での記念写真。  
それぞれ70歳。

結婚60年を迎え、それぞれへのメッセージ・・・  
健次さんから良子さんへ「オレより長生きしてください。」そして、良子さんから健次さんへは「ボケないで長生きしてください。」とのこと。  
戦争を振り返って・・・  
当時、健次さんは出兵して、仙台方面を守る師団に配属されました。毎日、防空壕を掘

るのが仕事だったそうです。一方、良子さんは勤労奉仕隊として3ヶ月間、日立の工場に働いていたそうです。  
その戦争を今振り返って、「世界の大国を相手にバカな戦争をしたと思うよ。」と健次さん。良子さんも「戦争は嫌だね。苦しかった・・・。米がなかったから、大豆めしやさつま芋ご飯、豆かすの入ったご飯なんかも食べたよ。」と当時を思い出していました。